

今月のことば

「しよせんは他人さ
自分の幸せが第一」
という現実と
深い悲しみ

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章

「どこかの村が、地震にあったと、
テレビニュースが街中に流れる。

読み上げられる死亡者の名前に、

かわいそうだと顔をくもらせる。

けれどほんとは、最初に、自分の幸せを喜んでしまう。

しよせんは他人さ、人類は兄弟だといつても。

しよせんは他人さ、自分の幸せが第一。

ほかの人のことまで、かまっちゃいられない」

これは、私の友達が、高校三年生の時（一九八四年）に作った歌『他人』の歌詞です。彼は、「しよせんは他人さ、自分の幸せが第一。ほかの人のことまで、かまっちゃいられない」と歌っているながら、それでいいと言っているのではありません。無意識のうちに、自分の幸せを第一に考えてしまう自分を、深く見つめながら、「このままではいけない、なんとかしなければ」という問題意識を、持ち続けているのです。

「人類は兄弟だ」とか、「人のため」とか言っても、最終的には自分が一番かわいく、自分の幸せを第一に考えてしまうのが人間なのです。しかし、「人間そんなものだから仕方が無い」と、開き直って、いいわけではありません。そのような自分の現実と正面から向かい合い、それを深い悲しみとして受け止めた時、そこには、単に自分がかわいいという思いに振り回される生き方とは、違う生き方が開けてくるのです。

合掌